松山市議会議員通信
やまがら
春　号
2012年

松山市議会議員
梶原ときよし

毎年、冬には自宅に来てくれます。

命を大切にする松山市政へ転換を!!

- すべての原発を廃炉にして、みんなの安心未来を築こう!!
- 子育て・教育・医療の市民負担を減らし、幸せに生きる権利と自由を守ろう!!
- 電車、バス、フェリーのシルバーパスを実施して、元気な高齢者が活躍するまちにしよう!!

発行・梶原ときよし事務所

3月議会の報告（あまりに残念な野志市政）

2012年3月予算議会が終了しました。

私を支援してくださっている皆様に一言お詫びを申し上げます。それは私の「人を視る目」が未熟であった事の反省を意味しています。その人の名は現松山市長の野志さんです。個人の名前を出すのもどうかと思いますが、野志さんは既に市長という公人であり、その方の言動は私たちの生活に直接影響を与える立場にありますので、あえて曖昧にせず、お知らせしたいと思います。

勿論その判断は読者のみなさんでお願いします。

以下、野志さんが市長になられた時点で、「少なくとも民間のサラリーマンであった事と、プロの政治家ではない新鮮さと市民感覚の素人っぽさがあるのではないか」という期待感が私にはホンの少しですがありました。その理由は野志さんが市長になられた直後の年末の議会との懇談会での発言からです。その中身は「議員の皆さんには多様な意見があり、同じ意見で無いから議会が活性化して行くと考えており、全ての議員の皆さんとは、いつでもお会いして意見交換をさせていただけるようにしていますので、秘書課を通じてお願いします」

「話せば理解、話さなければ誤解!というのが私の基本姿勢です」という言葉を聞き、もしかしたら市民のための市長になる可能性があるのではないか…?と勘違いをした私が〇〇でした。未熟者です!!

何故なら、あれから1年半、私から毎月（毎回）市長との政策意見交換会を申し入れていますが、ただの10分も時間を作ることをしません。秘書課長曰く「何回来られても市長は会わないと思います…」という返事の繰り返しです。仕方ないのでこの事実を一般質問で行ったところ「会う気がないのではなく、時間がないという事です…」とのふざけた答弁を市長自身がするのではなく、総務部長にさせる不甲斐なさです。議員の質問や・意見から逃げ回る市長の姿が情けなくてたまりません。

どうも、野志市長は自分の選挙を応援してくれた議員としか会わないことにしているようです

実は本題はこれからです!!

ナント3月議会で市長（部長が代弁）は梶原の質問に対しこんな恐ろしい発言をしました。

梶原：「昨年の3・11福島原発事故以来、日本全国の地方自治体で原発事故に対する対策が取られているのに松山市がその対策費を1円も計上せず、何もしないのは何故か?」「松山市から60キロにある伊方原発で福島第一原発と同様の事故が起きた時に市民はどこに逃げたらいいのか?またその際、放射性物質は何時間で松山市に飛んでくるのか?」と聞いたところ、

なな…何と!市長は

「伊方原発で事故が起きても松山市には放射能は飛んできません!!」と議場で平然と言ってのけました。真に「開いた口が塞がらない」とはこの事です。つまり、事故が起きても（福島の60キロ圏に悲惨な現実があろうと）松山には飛んでこないから原子力防災対策は取る必要がないので、予算計上はしませんという答弁でした。

どうも、市民の安全を守るどころか、心はJR駅高架橋の500億円に上る公共工事・400億円以上の西条分水工事や何百億かかるか見当もつかない外環状線工事にしか関心が無いのが本音のようです。昨年の松山市発注工事裏金疑惑を議会与党（イシン・コウメイ・社民等）の力を借りてもみ消した事（調査特別委員会の廃止・4面参照）は、皆さんもご承知だとは思いますが、今、松山市政がここまで地に落ちている事だけは知っておいてください。

市民の皆さんの怒りに期待しながら「市民の命を大切にする松山市政への転換」を目指して頑張る決意を表明して2012年「やまがら」春号のごあいさつとさせていただきます。

どうかご一読ください。

※ご意見・ご感想をいただけましたら幸いです。

松山市発注工事（裏金疑惑）調査特別委員会の廃止について

反対討論

梶原ときよし

ネットワーク市民の窓の梶原時義でございます。

私は松山市発注工事に関する真相解明議員有志の会の一員として、日程第6、「松山市発注工事解明調査特別委員会の廃止」提案について反対の討論を行います。

本特別委員会は、昨年3月に発覚した松山市発注工事に絡む、裏金疑惑の解明を目的として発足したものですが、今回の廃止提案は、疑惑解明を恐れる関係執行部の思惑に配慮したと思われる与党的立場の議員によって、本市発注工事の癒着の構図に切り込むどころか、疑惑解明の本丸に手をつけることなく、握り潰そうとするもので、主権者である市民を愚弄するものに他なりません。

今回の裏金疑惑は、松山市発注工事を孫請け受注した元社長が「裏金を作らされて元市職員に渡した」という証言から発覚したもので、その証言内容を裏付ける事実が、元請け会社クボタの調査報告書からもうかがえます。

そこには「元市職員が孫請け業者から下請け業者に対し、工事代金に不明朗な金を上乗せして支払わせ、それを裏金として自己に支払わせたとの報道を、間接的に裏付ける供述とも認められる」とあります。

つまり今回の事件で、裏金作りを指図し、受け取った元市職員に対しその原資を支払った元請け会社のクボタと、裏金を直接手渡した、孫請け会社ASK元社長の証言は、一連の流れからも一致しており、明らかに裏金が存在したことを証明しています。

本市の説明する「元請け会社との契約書である表帳簿には出てこないから、工事代金の上乗せは無かった」という結論は「頭隠して尻隠さず」と言うしかありません。

また、裏金疑惑の矢面にある公営企業局管理者が、裏金の告発を行った元社長に対し、疑惑とは全く関係の無い前科を公表した事は、告発を行った、元社長証言の信ぴょう性に疑いを持たせるために行った卑劣な行為であり、人権意識の貧しさだけでなく、自らを律する力の無さをさらけ出したものと言えます。

市民の汗と涙で支払った市民の税金から、本市元職員が裏金を作りだしていたという痕跡がはっきりと残っていながら、何が何でも無かったものにしようとする関係執行部・与党的立場の議員の姿勢からも、この事件の根深さ、泥沼の様相であることを物語っています。今回、裏金疑惑の、表の中心人物といわれる元松山市職員が、一年経ってやっと、本市発注工事の元請け会社クボタとの会食を認めたことで、裏金造りの経緯とクボタの報告書にある内容の客観性が、明らかとなったばかりです。

○裏の中心人物は誰なのか?

○最終的に裏金は誰に渡ったのか?

○何故、実績もない会社が短期間に常識を超える受注ができたのか。

今回の件は、ただ単に公金裏金疑惑のみならず、市役所全体の構造的な問題にまで発展しています。

淀みのない市政実現の為には、疑惑を塗りつぶすのではなく、どの角度から見ても純白だといえるまで追及する必要があるのではないでしょうか。

また、現段階におきましては、孫請け会社ASKの元社長証言だけではなく、別の孫請け会社の元社長からも同じ元市職員に裏金を渡したとの証言も新たに出てきており、全容を解明する事が本市市議会の責務である事は言うまでもありません。

これからが、市民の信託を受けた議員の出番であり、市政への監視機能を発揮させてこそ議員の存在価値があると思います。

すべての議員の皆さんが、良心に従い全容解明に向けて一丸となる事を期待して、私の裏金疑惑解明調査特別委員会廃止案に対する反対の討論を終わります。

市議会に対する市民の皆さんの熱い注目を宜しくお願いします!!以上

祝　食場～平井線（小野3号線）開通

伊台・湯山～平井・森松地区の皆さん待望の松山市道・食場～平井線が3月30日（金）開通しました。

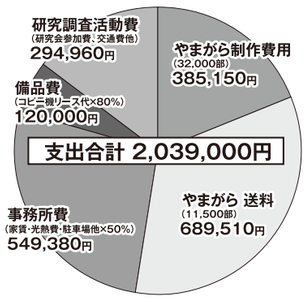
末町の交差点から国道11号線平井方面まで10分程度で行ける環境になり、利便性とともに生活の幅が更に広くなることは間違いありません。開通後は交通量増大による渋滞や交通事故対策の具体化も急がれますが、とりあえず、関係地区住民の生活に大きく寄与するものと確信して素直に喜びたいと思います。

※何かお気付きの事がありましたら、ご連絡ください。

〈梶原時義の2011年度政務調査費収支報告〉

（2011年4月～2012年3月まで）

〈支出〉　〈収入〉



政務調査費 1,224,000円
歳費より　815,000円

収入合計 2,039,000円

※議員の活動について政務調査活動と一般的な議員活動を区別することが困難であるという規程から、一部50%～80%の按分としています。

※携帯電話代、ガソリン代等は計上していません。（自己負担しています。）

梶原ときよしの活動予定や市議会のスケジュールはHPでご確認いただけます。

ホームページ　梶原ときよし　検索

http://tokiyoshi.sakura.ne.jp

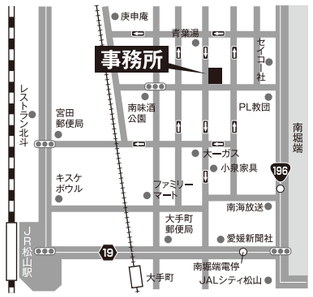
「スケジュール」に行動予定と感想を入れていますのでクリックしてください。

梶原ときよし事務所

〒790-0813　松山市萱町2丁目1-2
TEL 089-947-2258 FAX 089-947-2259
携帯 080-5669-8586

自宅/松山市湯の山4丁目1-5
TEL/FAX/977-8586
E-mail sizenha-812@lib.e-catv.ne.jp

●午後1時～午後5時まで
●土・日・祝日はお休みです。

P あります。

お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。